



大和
思想

四章

四章 「全体をまとめる」プロセス

目次

序文

「全体をまとめる」プロセス

「共存共栄の世の中」を実現させるプロセス

四章 「全体をまとめる」 プロセス

序文

※ここで言う『全体をまとめる』プロセスとは、「全体を『共存共栄の世の中を維持しつつ、その全体の目的を実現している状態』にするプロセス」という意味です。

私は、三章で「全体の構造」について説明しました。

ですから、皆さんは、すでに、完璧ではないとしても、何となくは「全体の構造」を理解していると思います。

「全体の構造」を理解することは、「大和思想を実践する」上で必要不可欠です。

ですから、「それを理解した」ということは、皆さんは、『大和思想を実践する』ために必要な能力」を着実に身に付けていると言えます。

そこで、四章では、『全体をまとめる』プロセス（手順）」について説明したいと思えます。

「全体をまとめる」ためには、「全体の構造」をしっかりと理解する必要がありますが、「全体の構造」だけでなく、『全体をまとめる』プロセス」もしっかり理解する必要があります。

「全体をまとめる」ときに、「何から始めればいいのか」「どのように作業を進めればいいのか」

か」が分からなければ、つまり、『全体をまとめる』プロセス」が分からなければ、「全体をまとめること」はできません。

ですから、「全体をまとめる」ためには、『全体をまとめる』プロセス」もしっかり理解する必要があります。

さて、『全体をまとめる』プロセス」は、次の五つの「プロセス」から成り立っています。

プロセス1、「何があっても絶対にとまとめる!!」という「強い意志」を持つ

プロセス2、「全体の目的」を明確にする

プロセス3、「全体がまとまっている状態（全体が『共存共栄の世の中』を維持しつつ、

『その全体の目的』を表現している状態」を具体的に描き出す

プロセス4、「全体の現状」を正確に把握する

プロセス5、「プロセス3」で描き出した「全体がまとまっている状態」と「プロセス4」で把握した「全体の現状」を照らし合わせて、「まとまっていない部分」を「まとまっている状態」に変える

これが、「『全体をまとめる』プロセス」なのです。

この『全体をまとめる』プロセス」は、どのような「全体」にも当てはまるので、これに従って『『全体をまとめる』作業』を進めれば、誰でも、「家族」「友人の集まり」「地域社会」

「会社」「国家」「世界」等の、普段自分が関わっている「全体」を「まとめること」ができます。

もちろん、あなたも、「普段自分が関わっている『全体』をまとめること」ができます。

ですから、これから説明する「『全体をまとめる』プロセス」も、「全体の構造」と同じように、しっかり理解してほしいと思います。

「全体の構造」をしっかり理解し、「『全体をまとめる』プロセス」もしっかり理解すれば、あなたも、「普段自分が関わっている『全体』をまとめること」ができるようになるのです。

「全体をまとめる」プロセス

それでは、『「全体をまとめる」プロセス』について説明したいと思います。

プロセス1、「何があっても絶対にまとめる!!」という「強い意志」を持つ

どのような「目的」を実現させる場合でも同じですが、何らかの「目的」を本当に実現させようと思うなら、まず、はじめに、「絶対にそれを実現させる!!」という「強い意志」を持つ必要があります。

「実際に『目的を実現させること』ができるかどうか」は、「どれだけ『本気』になれるか」という、「本気度の問題」と言っても過言ではありません。

特に、「実現させるのが困難な目的」を実現させなければならぬときに、「実現できたらいいな」とか、「うまくいけば成功できる」程度にしか考えていなかったら、当然、それが実現する確率は高くなりません。

ですから、もし、何らかの「目的」を本当に実現させようと思うなら、まず、はじめに、「絶対にそれを実現させる!!」という「強い意志」を持つ必要があるのです。

それと同じで、もし、本当に「全体」をまとめようと思うなら、まず、はじめに、「何があっても絶対にまとめる!!」という「強い意志」を持つ必要があります。

「全体をまとめる」と口で言うのは簡単ですが、実際に、それを行なうのは簡単ではありません。

『「全体をまとめる」作業』をしていると様々な「問題」や「困難」が起ります。それは、全て解決し、乗り越えなければなりません。『「全体をまとめる」作業』は、その「全体」が存在している限り、永遠に続けなければなりません。

ですから、軽い気持ちで取り組んでいたら、「全体をまとめること」などできないのです。

ですから、「全体をまとめる」ためには、まず、はじめに、「何があっても絶対にまとめる!!」という「強い意志」を持つのです。

そして、「真剣」に「必死」に「がむしゃら」になって、『全体をまとめる』作業」をするのです。

『全体をまとめること』ができるかどうかは、「どれだけ『本気』になれるか」という、取り組む人の「本気度」にかかっています。

ですから、「全体をまとめる」ためには、まず、はじめに、「何があっても絶対にまとめる!!」という「強い意志」を持つのです。

プロセス2、「全体の目的」を明確にする

「何があっても絶対にまとめる!!」という「強い意志」を持ったら、次に「全体の目的」を明確にします。

世の中には、「全体の目的」が明確でないまま「全体の活動」や『全体をまとめる』作業」をする人がいますが、「全体の目的」が明確でなければ、『全体』を最終的に、どのような状態にすればいいのか」が分からないので、「全体をまとめること」はできません。

ですから、「全体をまとめる」ためには、「まとめる作業」をする前に、「その全体の目的」を明確にする必要があります。

例えば、『家族』をまとめる」ときには、「まとめる作業」をする前に、「家族全員で協力して生きていく」という「家族の目的」を明確にします。

『友人の集まり』をまとめる」ときには、「まとめる作業」をする前に、「有意義な時間を過ごす」「自分にはない『知識』や『感性』に触れる」等の「その友人の集まりの目的」を明確にします。

『会社』をまとめる」ときには、「まとめる作業」をする前に、「利益を上げ、それを『会社』を構成する全ての人』に分配する」という「会社の目的」を明確にします。

『国家』をまとめる」ときには、「まとめる作業」をする前に、「国民全員の生活を安定させる」という「国家の目的」を明確にします。

このように、「全体をまとめる」ときには、「まとめる作業」をする前に、まず『その全体の目的』を明確にする」のです。

「全体の目的」には分かりづらいものもありますが、世の中の全ての「全体」には必ず「目的」があるので、時間をかけてじっくり考えれば必ず分かります。

また、「全体の目的」は、一つの「全体」に一つしかありません。

その「一つの目的」をよく考えて明確にするのです。

「全体の目的」が明確でなければ、『全体』を最終的に、どのような状態にすればいいのか」が分かりません。

ですから、「プロセス2」では、「『全体の目的』を明確にする」のです。

プロセス3、「全体がまとまっている状態（全体が『共存共栄の世の中』を維持しつつ、

『その全体の目的』を実現している状態）」を具体的に描き出す

「全体の目的」を明確にしたら、次に、「その『全体』がまとまっている状態」を具体的に描き出します。

ここで言う「『全体がまとまっている状態』を具体的に描き出す」とは、「『その全体がまとまっている状態（その全体が、共存共栄の世の中を維持しつつ、その全体の目的を実現してい

る状態』における、『その全体を構成する全ての要素（その全体を成り立たせている全ての要素）の状態』を具体的に描き出す」ということです。

例えば、『家族がまとまっている状態』を具体的に描き出す」とは、「その『家族』がまとまっている状態（その『家族』が『共存共栄の世の中』を維持しつつ、『その家族の目的』を実現している状態）」であるためには、「役割分担」「家族のルール」「コミュニケーションのあり方」「住んでいる建物」等の「その『家族』を構成する全ての要素（その『家族』を成り立たせている全ての要素）」は、どのような状態であるべきかを調べ、考えて、具体的に描き出すということです。

つまり、「家族」には、「家族全員で協力して生きていく」という「目的」があるので、『共存共栄の世の中を維持しつつ、家族全員で協力して生きていくこと』ができている状態であるためには、「その『家族』を構成する全ての要素」は、どのような状態であるべきかを様々な手段を使って調べ、考えて、具体的に描き出すということ です。

また、「『会社がまとまっている状態』を具体的に描き出す」とは、「その『会社』がまとまっている状態（その『会社』が『共存共栄の世の中』を維持しつつ、『その会社の目的』を實現している状態）」であるためには、「収支」「経営目標」「役割分担」「生産の仕組み」「販売方法」「社員教育」等の「その『会社』を構成する全ての要素（その『会社』を成り立たせている全ての要素）」は、どのような状態であるべきかを調べ、考えて、具体的に描き出すということです。

つまり、「会社」には、「利益を上げ、それを『会社を構成する全ての人』に分配する」という「目的」があるので、「『共存共栄の世の中』を維持しつつ、利益を上げ、それを会社を構成する全ての人に分配すること」ができている状態」であるためには、「その『会社』を構成する全ての要素」は、どのような状態であるべきかを様々な手段を使って調べ、考えて、具体的に描き出すということです。

また、「『国家がまとまっている状態』を具体的に描き出す」とは、「その『国家』がまとまっている状態（その『国家』が『共存共栄の世の中』を維持しつつ、『その国家の目的』を実

現している状態」であるためには、「政治システム」「経済システム」「法律のあり方」「教育のあり方」「メディアのあり方」等の「その『国家』を構成する全ての要素（その『国家』を成り立たせている全ての要素）」は、どのような状態であるべきかを調べ、考えて、具体的に描き出すということです。

つまり、「国家」には、「国民全員の生活を安定させる」という「目的」があるので、「共存共栄の世の中を維持しつつ、国民全員の生活を安定させること」ができている状態」であるためには、「その『国家』を構成する全ての要素」は、どのような状態であるべきかを様々な手段を使って調べ、考えて、具体的に描き出すということです。

このように、「『全体がまとまっている状態』を具体的に描き出す」とは、「その全体がまとまっている状態（その全体が、共存共栄の世の中を維持しつつ、その全体の目的を実現している状態）」における、「その全体を構成する全ての要素（その全体を成り立たせている全ての要素）」の状態』を具体的に描き出す」ということなのです。

「全体がまとまっている状態」を具体的に描き出さなければ、『全体』を具体的に、どのような状態にすればいいのか」が分からないので、「全体をまとめること」はできません。

逆に、『全体がまとまっている状態』を具体的に描き出すこと」ができれば、後は、「全体」を「その状態」にするだけで、その「全体」は「まとまる」のです。

ですから、「プロセス3」では、『全体』がまとまっている状態」を具体的に描き出すのです。

ところで、この「全体がまとまっている状態」は、「全体の状態」や「全体を取り巻く環境」が変化したら、それに伴って少なからず変化します。

ですから、「全体の状態」や「全体を取り巻く環境」が変化したときには、新ためて、「その変化に対応した『全体がまとまっている状態』」を具体的に描き出す必要があります。

例えば、「家族」の場合、「家族を構成する人」の「年齢」が変われば、「役割分担」や「家族のあり方」は少なからず変わるはずですし、誰かが病気や怪我で「自分の役割」を果たせないときも、「役割分担」は変わるはずです。

また、仕事が順調でなくなり収入が減ったら、警沢をしないうで出費を抑え、その状況に見合った生活をする必要があるので、やはり「家族のあり方」は変わります。

このように、「全体がまとまっている状態」は、「その全体の状態」や「その全体を取り巻く環境」が変化したら、それに伴って少なからず変化するのです。

ですから、「全体の状態」や「全体を取り巻く環境」が変化したときには、新ためて、「その変化に対応した『全体がまとまっている状態』」を具体的に描き出す必要があるのです。

プロセス4、「全体の現状」を正確に把握する

「全体をまとめる」ためには、「プロセス3」で描き出した「全体がまとまっている状態」と「全体の現状」を照らし合わせて、「まとまっていない部分」を「まとまっている状態」に変える必要があります。

ですから、「プロセス4」では、「全体の現状」、つまり『全体を構成する全ての要素（全体を成り立たせている全ての要素）の現状」を正確に把握します。

世の中には、「現状」が「望んでいない状態」のときや、「望んでいない状態である」と思
い込んでいるときに、「現状」から反射的に目をそらしてしまい、直視できない人がいます。

ですが、「現状」を直視しなければ、『全体』が『まとまっている』のか『まとまっていな
い』のか」が分かりませんし、たとえ、「まとまっていない」のが分かっていたとしても、「具
体的に、どこが、どうまとまっていないのか」は分かりません。

そして、それが分からないので、「具体的に『全体をまとめる』作業」ができません。

ですから、「全体をまとめる」ためには、たとえ、「現状」が「目をそらしたくなるような
もの」でも、無理矢理にでも直視し、正確に把握する必要があるのです。

一旦「現状から目をそらす癖」がついてしまうと、「現状」の善し悪しに関係なく、反射的に目をそらしてしまいます。

そういう人にとっては、「現状を直視すること」は恐ろしいことなのかもしれません。

ですが、「安心感」を得たいがために目をそらしていたら、逆に、「本当の安心感（＝全体がまとまること）」によって得られる安心感」は、いつまでたっても得られないのです。

ですから、「全体をまとめる」ためには、たとえば、どのようなことがあっても、自分をしっかりコントロールし、「現状」を直視する必要がありますのです。

そして、「現状」を正確に把握する必要がありますのです。

「全体をまとめる」ためには、「プロセス3」で描き出した「全体がまとまっている状態」と「全体の現状」を照らし合わせて、「まとまっていない部分」を「まとまっている状態」に変える必要があります。

ですから、「プロセス4」では、「全体の現状」、つまり『全体を構成する全ての要素（全体を成り立たせている全ての要素）の現状」を正確に把握するのです。

プロセス5、「プロセス3」で描き出した「全体がまとまっている状態」と「プロセス4」で把握した「全体の現状」を照らし合わせて、「まとまっていない部分」を「まとまっている状態」に変える

「プロセス3」で「全体がまとまっている状態」を具体的に描き出し、「プロセス4」で「全体の現状」を正確に把握したら、最後に、それらを照らし合わせて、「まとまっていない部分」(『全体がまとまっている状態』を成り立たせなくしている部分)を、「まとまっている状態」(『全体がまとまっている状態』を成り立たせることができる状態)に変えます。

例えば、「家族をまとめる」ときには、「プロセス3」で描き出した「その『家族』がまとまっている状態」と「プロセス4」で把握した「その『家族』の現状」を照らし合わせます。そして、もし、「役割分担」「家族のルール」「コミュニケーションのあり方」が、「まとまっ

ていない部分（『その家族がまとまっている状態』を成り立たせなくしている部分）であったら、それらを「まとまっている状態」（『その家族がまとまっている状態』を成り立たせることができる状態）に変えます。

また、「会社をまとめる」ときには、「プロセス3」で描き出した「その『会社』がまとまっている状態」と「プロセス4」で把握した「その『会社』の現状」を照らし合わせます。

そして、もし、「経営目標」「販売方法」「社員教育」が、「まとまっている部分」（『その会社がまとまっている状態』を成り立たせなくしている部分）であったら、それらを「まとまっている状態」（『その会社がまとまっている状態』を成り立たせることができる状態）に変えます。

また、「国家をまとめる」ときには、「プロセス3」で描き出した「その『国家』がまとまっている状態」と「プロセス4」で把握した「その『国家』の現状」を照らし合わせます。

そして、もし、「政治システム」「法律のあり方」「教育のあり方」「メディアのあり方」が、

「まとまっていない部分(『その国家がまとまっている状態』を成り立たせなくしている部分)」であったら、それらを「まとまっている状態(『その国家がまとまっている状態』を成り立たせることができる状態)」に変えます。

このように、「プロセス5」では、「プロセス3」で描き出した「全体がまとまっている状態」と「プロセス4」で把握した「全体の現状」を照らし合わせて、「まとまっていない部分(『全体がまとまっている状態』を成り立たせなくしている部分)」を、「まとまっている状態(『全体がまとまっている状態』を成り立たせることができる状態)」に変えるのです。

「プロセス3」で「全体がまとまっている状態」を具体的に描き出し、「プロセス4」で「全体の現状」を正確に把握したら、後は、この作業を行なうだけで、「全体をまとめること」ができるのです。

さて、これが『全体をまとめる』プロセスなのです。

これは、『全体をまとめる』作業の「本質的なもの」なので、当然のことと言えば当然のことだと言えます。

ですが、これら全てをしっかり行なうのは簡単ではありません。

例えば、「全体の目的」には、「会社の目的」のように分かりやすいものもありますが、「家族の目的」「友人の集まりの目的」「国家の目的」「人類の目的」のように、分かりにくいものもあります。

分かりにくいと言うより、そもそも、それらを考えたことがある人が、あまりいないと思います。

ですが、「目的」が明確でなければ、『全体』を最終的に、どのような状態にすればいいのか」が分からないので、「全体」をまとめようがありません。

ですから、「全体の目的」は、時間をかけてでもよく考え、明確にしなければなりません。

また、『全体がまとまっている状態』を具体的に描き出す作業」は、それを「正確に描き出す」必要性から、時間をかけてしっかり調べ、考える必要があります。

ですから、この作業は、「全体」の規模が大きければ、それだけで、もの凄い時間と労力がかかります。

また、『全体の現状』を正確に把握する作業」も、短時間行なっただけでは正確に把握できないので、必然的に時間がかかります。

また、『全体をまとめる』作業」は、「一時的」に行なうものではなく、「全体」が存在している限り、永遠に「続ける」必要があります。

また、実際に「全体をまとめる」ときには、必要なら何度でも前のプロセスに戻り、そのプロセスをやり直す必要があります。

例えば、「プロセス5」の『全体がまとまっている状態』と『全体の現状』を照らし合わ

せて、『まとまっていない部分』を『まとまっている状態』に変える作業」をしているときに、『全体がまとまっている状態』が具体的に描き出されていないこと」に気付いたら、「プロセス3」に戻って、『全体がまとまっている状態』を具体的に描き直す」必要がありますし、『全体の現状』が正確に把握できていないこと」に気付いたら、「プロセス4」に戻って、『全体の現状を正確に把握する作業』をもう一度行なう」必要があります。

このように、実際に「全体をまとめる」ときには、必要なら何度でも前のプロセスに戻って、そのプロセスをやり直す必要があるのです。

これらのことから分かるように、ここで説明した『全体をまとめる』プロセス」は、当然のことと言えば当然のことなのですが、これら全てをしっかりと行なうのは簡単ではないのです。

ですが、これこそが『全体をまとめる』作業」の「本質的なもの」なので、このプロセス

に従って『『全体をまとめる』作業』を徹底して行なえば、誰でも、どのような「全体」でも、必ず「まとめること」ができるのです。

「全体をまとめる」ということを漠然と捉えているだけでは、「何から始めればいいのか」「どのように作業を進めればいいのか」が分からないので、「全体をまとめること」はできません。

ですから、「全体をまとめる」ためには、『『全体をまとめる』プロセス』をしっかりと理解する必要があります。

「大和思想」においては、「普段自分が関わっている『全体』をまとめること」が根本的に重要ですが、この『『全体をまとめる』プロセス』に従って作業を進めれば、誰でも、「普段自

分が関わっている『全体』をまとめること」ができるのです。

ですから、ここで理解したことは、絶対に忘れないでください。

そして、「何があっても絶対にまとめる!!」という「強い意志」を持って、あなたが関わっている様々な「全体」をまとめてほしいと思います。

「共存共栄の世の中」を実現させるプロセス

先ほど説明したように、どのような「全体」でも、「全体をまとめる」ためには、『全体をまとめる』プロセスに従って、その作業を進める必要があります。

ですから、「大和思想」の「目的」である「共存共栄の世の中」を実現させる（「世の中全体」をまとめる）場合も、『全体をまとめる』プロセスに従って、その作業を進める必要があります。

つまり、まず、はじめに、「何があっても絶対に『共存共栄の世の中』を実現させる!!」という「強い意志」を持ちます。

次に、『共存共栄の世の中』を実現させ、世の中の全ての人と共に『幸福』になる」という「目的」を明確にします。

その次に、「共存共栄の世の中（『世の中全体』がまとまっている状態）」を具体的に描き出します。

その次に、「世の中の現状」を正確に把握します。

そして、最後に、具体的に描き出した「共存共栄の世の中」と「世の中の現状」を照らし合わせて、『共存共栄の世の中』を成り立たせなくしている部分」を『共存共栄の世の中』を成り立たせることができる状態」に変えるのです。

「共存共栄の世の中」を実現させるためには、このように、『全体をまとめる』プロセス」

に従って、その作業を進める必要があります。

さて、「共存共栄の世の中」を実現させるためには、「『全体をまとめる』プロセス」に従って、その作業を進める必要があるのですが、世の中は、規模がとも大きな「全体」なので、実際に「共存共栄の世の中」を実現させるためには、「『共存共栄の世の中を実現させる上での重要な部分（要素）』を『共存共栄の世の中を成り立たせることができる状態』にする」ということによって、『共存共栄の世の中』を実現させる」という考えが重要になります。

「共存共栄の世の中」を実現させる上で、特に重要になる部分（要素）は、

「世の中の全ての『人』」

「世の中の全ての人の『人間関係』」

「世の中の全ての『全体をまとめる立場の人』」

「世の中の全ての『まとめられる立場の人』」

「世の中の全ての『家族』」

「世の中の全ての『友人の集まり』」

「世の中の全ての『会社』」

「世の中の全ての『国家』」

「世界（人類）」です。

「共存共栄の世の中」を実現させるためには、「これらを『共存共栄の世の中』を成り立たせることができる状態』にすることによって、『共存共栄の世の中』を実現させる」という考えが重要になるのです。

そこで、この後の章では、これらを「『共存共栄の世の中』を成り立たせることができる状態』にする上で重要になることについて、順番に説明していききたいと思います。

これから説明することをしっかり理解すれば、これらを『共存共栄の世の中』を成り立たせることができる状態」にすることができます。

ですから、これから説明することも、しっかり理解してほしいと思います。



大和
思想

四章